



木の郷ぎふの家 御嵩建築 の住まい創り新聞

Vol.44

今回のテーマ
現場レポート
木と漆喰のモデルハウス今秋OPEN



雨楽な家 笑家族SK-28
リビング

現場レポート

◎御嵩町 木と漆喰のモデルハウス

いよいよ、御嵩モデルハウスが本格始動します。
基礎工事の前に地盤の強度を確かめます。

地鎮祭。がんばりましょう！

地盤改良が始まりました。

地盤の強度が少し弱いため、地盤深さ1m程度の表層改良をします。
安心ですね！

木と漆喰のモデルハウスの模型が完成しました。

事務所に展示されていますので、見に来てください。

◎各務原市 O様邸

外観状況。だいぶ、出来てきましたね。楽しみです。

◎灯笼 美濃市 T様

灯笼の発注をいただきました。ありがとうございます。

手間がかかりますね～(笑)

◎土岐市 H様邸 新築工事

完成しました。お引渡しとなりました。「ありがとうございました。」



【当社ホームページより抜粋。詳しくは **ぎふの家** 検索！】

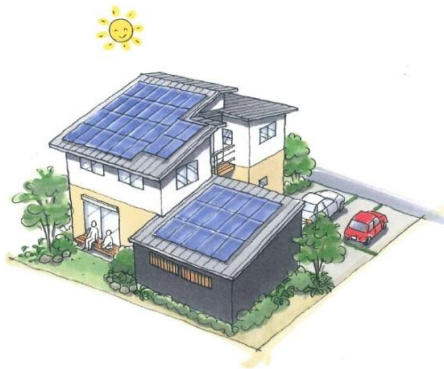
Topics

先日開催しました「完成見学会」には、多くの皆様のご来場をいただきました。誠にありがとうございます。
今後共、価値ある木の家を手の届く価格でご提供できるように、努力して参ります。

木と漆喰のモデルハウス 今秋OPEN

「木と漆喰のモデルハウス」が御嵩町顔戸に今秋OPENします。

「雨楽な家 町家」をベースに、道路の北面に玄関や駐車場を設けます。格子をあしらった外観デザインや緑豊かな前庭がお客様や道行く人の目を楽しませます。南面の屋根には大容量のパネルの太陽光発電システムを搭載しました。環境にも家計にも配慮し、そこから収益を生む住まいです。



5月24日(土曜日)に上棟を予定しています。また、午後4時から餅投げも行いますので、ぜひ遊びに来てください。皆様のお越しをお待ちしております。

餅投げの歴史と由来

上棟式での餅まきは、「散餅銭の儀」という災いを祓うための儀式の中で、餅と銭をまく事がもとなっているようです。

家を建てることは大きな厄災を招くという考えがあり、その厄を避けるために餅や小銭をまいて他人に持って帰ってもらうという説があります。

古い時代には、家を建てるということは、(地域)の共同体による共同作業でした。

「家を建てる」=「富がある」ということの象徴で、その富を地域の共同体で分け与えることで、厄災(家を建てられない人の嫉妬も有ったと思います)を避けるために、神饌であり保存食でもある『餅』や富の分配の形としての『小銭』をまく(分配)ことが、地域の共同体の中での生活を円滑におこなうための習慣だったようです。平安時代から鎌倉時代にかけて上棟式そのものの習慣が広まり、一般庶民も行うようになったのは江戸時代からだそうです。